

**製品名: Myt 1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14358**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PKMYT1
別名	PKMYT1; MYT1; Membrane-associated tyrosine- and threonine-specific cdc2-inhibitory kinase; Myt1 kinase
遺伝子 ID	9088.0
SwissProt ID	Q99640
免疫原	抗血清はヒト PKMYT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 49-98

**背景**

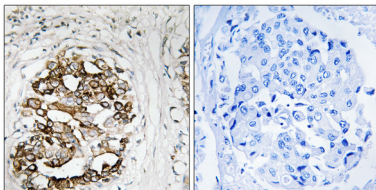
この遺伝子は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は

膜関連キナーゼであり、サイクリン依存性キナーゼ 1 をリン酸化して不活性化することで、細胞周期の G2/M 期遷移を負に制御します。コードされているタンパク質の活性は、ポロ様キナーゼ 1 によって制御されます。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 5 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、ドメイン: 膜関連モチーフは、ゴルジ体膜への局在に必須です。一部の著者によると、これは膜貫通ドメインですが、膜貫通領域の存在は証明されていません。、酵素制御: 有糸分裂中の過剰リン酸化によって負に制御されます。過剰リン酸化型は CCNB1-CDC2 複合体と会合しない。PLK1 タンパク質キナーゼは有糸分裂リン酸化に必要であると考えられる。、機能: cdc2 がサイクリンと複合体を形成している場合、cdc2 キナーゼのリン酸化によって有糸分裂 (G2 期から M 期への移行) 開始の負の調節因子として機能する。cdc2 の主に「Thr-14」のリン酸化を媒介する。ゴルジ体の断片化にも関与する。cdc2 の「Tyr-15」のリン酸化にも関与している可能性があるが、チロシンキナーゼ活性は不明であり、間接的である可能性がある。眼の発達過程において、Notch シグナル伝達経路の下流標的となる可能性がある。、PTM: 自己リン酸化。CDC2-CCNB1 複合体によって、未定義のセリンおよびスレオニン残基がリン酸化される。CDC2-CCNB1 複合体によるリン酸化は、触媒活性を阻害する可能性がある。、配列注意: キメラ cDNA。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。WEE1 サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット: CDC2-CCNB1 複合体と相互作用する。CDC2-CCNB1 によってリン酸化されると、PIN1 とも相互作用する。、

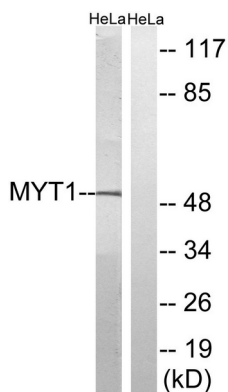
## 研究分野

Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;卵母細胞減数分裂;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

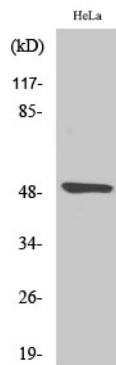
## 画像データ



MYT1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



MYT1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Myt 1 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。